

1 研究論文

2

jass.sty パッケージ

3

— 『社会言語科学』 L^AT_EX スタイルファイル —

4

和文著者名 1 (所属 1) ・和文著者名 2 (所属 2)

5

この文書では『社会言語科学』 L^AT_EX スタイルファイルの使用法について説明します。この文書自体が L^AT_EX で投稿原稿を作成する際のサンプルになっています。この文書を投稿用のテンプレートとしてお使いください。なお、原稿執筆に関する一般的諸注意については、学会ホームページの「執筆要項」をご参照ください。

9

キーワード：『社会言語科学』, L^AT_EX, テンプレート, スタイルファイル, 投稿

10

jass.sty Package:

11

L^AT_EX Style File for the *Japanese Journal of Language in Society*

12

Author 1 (Affiliation 1), Author 2 (Affiliation 2)

13

This document describes the usage of the L^AT_EX style file for the *Japanese Journal of Language in Society*. The document, by itself, serves as an example of a L^AT_EX manuscript to be submitted to the journal. You may use this document as a template when preparing your manuscript in L^AT_EX. Please refer to the ‘Style Guide’ in the society web page for general submission and style guidelines.

17

Key words: *Japanese Journal of Language in Society*, L^AT_EX, template, style file, submission

18 1. はじめに

19 この文書では『社会言語科学』 L^AT_EX スタイル
20 ファイル jass.sty の使用法について説明します。
21 本パッケージを用いると、執筆要項に定められた
22 レイアウト・フォントサイズ・行間・字下げなどが
23 自動的に設定されます。これらに関わるパラメタ
24 (`\textheight`, `\baselineskip` など) の値を変更
25 したり、`(\hspace{...}, \vspace{...})` を使って
26 手動で空白を空けたりすることは避けてください。
27 本スタイルファイルは jsarticle クラスファイ
28 ルとともに用います (pL^AT_EX 標準の jarticle で
29 はありません)。文書の冒頭に以下のように記述し
30 てください。デフォルトでは、(本文書のように) 行
31 番号が振られます¹⁾。

```
32 \documentclass{jsarticle}
```

```
33 \usepackage{jass}
```

34 本パッケージは、Windows 上の TeX Live や Mac
35 上の MacTeX など標準的な T_EX ディストリビュー
36 ションで利用可能です²⁾。

37 2. タイトル部

38 2.1 投稿原稿の種類

39 投稿原稿の種類を `\papertype{...}` に指定しま
40 す。以下のいずれかから選択します。

```
41 \papertype{研究論文}
```

```
42 \papertype{展望論文}
```

```
43 \papertype{資料}
```

1 `\papertype{シヨートノート}`

2 2.2 和文/英語タイトル・サブタイトル

3 以下のコマンドで指定します。サブタイトルは省

4 略可能です。

5 `\jtitle{和文タイトル}`

6 `\jsubtitle{和文サブタイトル}`

7 `\etitle{Title in English}`

8 `\esubtitle{Subtitle in English}`

9 2.3 和文/英語著者情報

10 論文投稿時には著者情報を記載せず、以下のコマ

11 ンドをそのまま記述します。

12 `\jauthor{和文著者名 1\and 和文著者名 2}`

13 `\jaffiliation{所属 1\and 所属 2}`

14 `\eauthor{Author 1\and Author 2}`

15 `\eaffiliation{Affiliation 1\and`

16 `Affiliation 2}`

17 これらのコマンドにおける`\and`の個数は必ず揃

18 えてください。

19 2.4 和文/英語要約・キーワード

20 以下のコマンドで指定します。キーワードは5語

21 程度です。

22 `\jabstract{和文要旨}`

23 `\jkeyword{キーワード 1, キーワード 2,`

24 `キーワード 3, キーワード 4, キーワード 5}`

25 `\eabstract{Abstract in English}`

26 `\ekeyword{key word 1, key word 2,`

27 `key word 3, key word 4, key word 5}`

28 2.5 タイトル部の生成

29 以上の指定を行なったのち、以下のコマンドを記

30 述します。

31 `\maketitle`

32 3. 本文

33 3.1 フォントサイズ

34 通常の`LATEX`文書よりも全体として小さめのフォ

35 ントが用いられています³⁾。`\tiny`~`\HUGE`のフォ

36 ントサイズコマンドに加えて、大見出しのサイズに

37 相当する`\middlesize`というコマンドが追加され

38 ています。

39 3.2 レイアウト

40 本文は2段組、1行あたり23字、1段あたり40

41 行で組まれます。上下の余白は各45mm、左右の余

42 白は各24mmに設定されています。

43 3.3 見出し

44 章や節の見出しを生成するには、`\section{...}`

45 (大見出し)、`\subsection{...}`(中見出し)、

46 `\subsubsection{...}`(小見出し)を用います。

47 3.4 箇条書き

48 3.4.1 番号なし

49 番号なしの箇条書きは`itemize`環境を用います。

50 ● 番号なしの箇条書き

51 ● 字下げは2文字分。先頭・末尾行の前後や項目

52 間に空きはありません。

53 3.4.2 番号付き

54 番号付きの箇条書きは`enumerate`環境を用い

55 ます。

56 1. 番号付きの箇条書き

57 2. 字下げは2文字分。先頭・末尾行の前後や項目

58 間に空きはありません。

59 3.4.3 項目名付き

60 項目名付きの箇条書きは`description`環境を用

61 います。

62 先頭 項目名付きの箇条書き

63 長い項目名 字下げは4文字分。項目名が長い場合

64 は字下げ分よりはみ出します。先頭・末尾

65 行の前後や項目間に空きはありません。

66 3.5 引用ほか

67 3.5.1 引用

68 文章の引用には`quotation`環境を用います。

69 文章の引用。先頭行は3字下げ、2行目

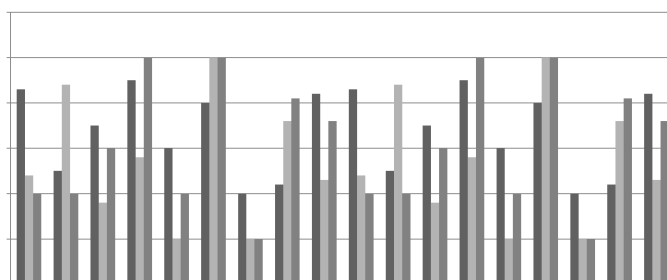


図1 図タイトル．2段抜きの図のタイトルは紙面の幅一杯を使って出力されます．複数行に渡る場合は図番号の位置に揃えて字下げされます．

1 以降は2字下げです．すべての行の右側に
 2 も2字分の空きが入ります．
 3 2段落目の先頭行も3字下げです．先
 4 頭・末尾行の前後は1行空きです．

5 3.5.2 入力通り出力

6 L^AT_EX のコマンド列も含め，文章を入力通り出力
 7 するには `verbatim` 環境を用います．

8 入力通り出力．

9 先頭・末尾行の前後は1行空きです．

10 本文内では `\verb` コマンドを用います．

11 3.5.3 中央・左・右寄せ配置

12 文章を中央・左・右寄せに配置するには，それぞれ
 13 `center`, `flushleft`, `flushright` 環境を用います．

14 たとえば中央寄せ．

15 先頭・末尾行の前後は1行空きです．

16 3.6 数式

17 数式には `equation` 環境を用います．

$$18 \quad y = x^2 \quad (1)$$

19 複数の数式を並べる場合は，`eqnarray` 環境を用
 20 います．

$$21 \quad z = y + 1 \quad (2)$$

$$22 \quad y = x^2 \quad (3)$$

23 いくつか注意すべき点があります．

- 24 1. 文書中で `equation` 環境や `eqnarray` 環境の直
 25 前の行との間に空行を開けないでください．空
 26 行を開けると，余分な空きが生じます（通常で
 27 あれば，数式の前後は半行空きです）．
- 28 2. 数式番号は行の右端につきます．左につけた
 29 い場合は，`jsarticle` クラスのオプションに
 30 `leqno` を指定してください．

31 `\documentclass[leqno]{jsarticle}`

- 32 3. 数式は中央寄せになります．左寄せにしたい場
 33 合は，`jsarticle` クラスのオプションに `fleqn`
 34 を指定してください．2字下げになります．

35 `\documentclass[leqno,fleqn]{jsarticle}`

36 4. 図表

37 段内の図表は `figure` および `table` 環境を用い
 38 ます．2段抜きの図表は `figure*` および `table*`環
 39 境を用います．

40 図表はすべて中央寄せに配置され，また高さは行
 41 送りの整数倍に調整されます．図1は2段抜きの図
 42 の例，図2は段内の図の例です．同様に，表1は2
 43 段抜きの表の例，表2は段内の表の例です．

44 4.1 表に関する諸注意

- 45 • 表は `\caption` コマンドと `tabular` 環境，そし
 46 て必要があれば `tablenotes` 環境の3つの部

表 1 表のタイトルは上部に出力されます .

項目	説明
タイトル	<code>\caption</code> コマンドで出力します
フォントサイズ	デフォルトでは <code>small</code> サイズになります
行間	<code>\renewcommand{\arraystretch}{倍率}</code> で変更できます
脚注	表内の脚注を <code>\tnote</code> コマンドと <code>tablenotes</code> 環境で出力できます *

* `\tnote{*}` のように引数に脚注マークを指定します . この脚注は `tablenotes` 環境で出力されています .

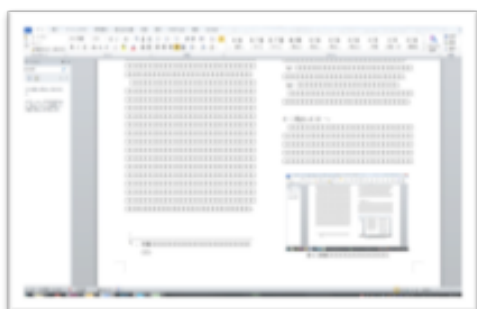


図 2 1 行におさまる場合は中央寄せになります .

1 分から構成されます .

- 2 ● 表タイトルが長い場合 , 表の幅で折り返されま
- 3 す . ただし , 表の幅が狭い場合は , 最低でも段の
- 4 幅の半分までは改行されません . この最低幅は
- 5 `\renewcommand\TPTminimum{幅}` で変更でき
- 6 ます .
- 7 ● `tabular` 環境で出力される表の行間は標準で
- 8 は `small` サイズの行送りです . この値を基準
- 9 として `\renewcommand\arraystretch{倍率}`
- 10 で変更できます .
- 11 ● 表の列間は標準では `1.4mm` の 2 倍です (セル
- 12 内の左右余白がそれぞれ `1.4mm`) . この値は ,
- 13 `\setlength\tabcolsep{幅}` で変更できます .
- 14 ● `tablenotes` 環境は , 表 1 にあるように , 表中
- 15 の脚注を出力するために用います .

16 4.2 図表の配置について

17 `LATEX` の図表は浮揚物 (floats) とよばれ , 本文と
 18 は別に組版されます . 科学論文では通常 , 図表は
 19 ページや段の上部か下部に配置します . `LATEX` で
 20 狙った位置に図表を配置するのはさほど難しくあり

21 ません . 以下にいくつかの Tips を挙げます .

- 22 ● `figure` 環境や `table` 環境の位置指定オプシ
- 23 ョンを使用せず , `LATEX` に任せます . 段の下部に
- 24 配置したいときのみ , `[b]` オプションを付けま
- 25 す . 強制的にその場所に出力させる `here.sty`
- 26 のようなパッケージは使用しないでください .
- 27 ● 2 段抜きの図表をあるページの上部に配置する
- 28 には , そのページの最初の段落が始まる箇所
- 29 (前のページ) を `LATEX` 文書中で探し , その直
- 30 前に図表を記載します . たとえば , 3 ページの
- 31 図 1 は , そのページの最初の段落である引用部
- 32 が始まる位置 (2 ページの 69 行目) の直前に記
- 33 載されています .
- 34 ● 同様に , 段内の図表をある段の上部に配置する
- 35 には , その段の最初の段落が始まる箇所 (前の
- 36 ページや段) を `LATEX` 文書中で探し , その直前
- 37 に図表を記載します . たとえば , 4 ページ左段
- 38 の図 2 は , その段の最初の段落である箇条書き
- 39 の項目が始まる位置 (3 ページの 45 行目) の直
- 40 前に記載されています .
- 41 ● 段の下部に配置するには , その段の最初の段落
- 42 が終わる箇所の直後に図表を記載します . たと

表 2 表のタイトルは表の幅で折り返されま
 す . 複数行に渡る場合は表番号の位置に
 揃えて字下げされます .

1 行目 · 1 列目	2 列目	...	m 列目
	2 行目	...	
	
	n 行目		n 行目 · m 列目

1 えば,4 ページ右段の表 2 は,その段の最初の段
2 落である箇条書きの項目が終わる位置(4 ペー
3 ジの 26 行目)の直後に記載されています。
4 • 図表の大きさによっては,以上の方法でうまく
5 いかないこともあります。その場合は,段落単
6 位で図表の記載位置を動かすのではなく,文や
7 文字の単位で動かしてみてください。その際,
8 図表を挟んで前後の文章が隙間なくつながるよ
9 う,L^AT_EX 文書中で空行を入れないよう気をつ
10 けてください。

11 5. 付記・謝辞

12 本文の後に,付記や謝辞を置くことができます。
13 付記は`\epilegomenon` コマンドに続けて,謝辞は
14 `\acknowledgement` コマンドに続けて書きます。

15 6. 注

16 注は脚注ではなく,末尾注とします。注を付けた
17 い箇所に通常通り`\footnote` コマンドを使って注
18 を記述し,末尾注を出力すべき位置(謝辞の後,参
19 考文献の前)に以下のコマンドを記述します。

20 `\theendnotes`

21 7. 参考文献

22 7.1 参考文献リスト

23 参考文献リストは Bib_TE_X を使って作成します。
24 Bib_TE_X のスタイルとして `jass.bst` を使用します。
25 参考文献を記述したファイルを `sample.bib` とする
26 と,以下のように記述することで執筆要項に従った
27 参考文献リストが出力されます。

28 `\bibliographystyle{jass}`

29 `\bibliography{sample}`

30 7.2 参考文献の引用

31 本文中の参考文献の引用には,以下の 2 通りの形
32 式があります。

33 1. 文の構成要素として引用文献を用いる場合

34 ソース `\citet{安田 77}`によれば～。

35 `\citet{Spitzberg84}`は,～。

36 出力 安田・海野(1977)によれば～。

37 Spitzberg & Cupach(1984)は,～。

38 2. 文末に引用文献を付ける場合

39 ソース ～である`\citep{安田 77}`。

40 ～という`\citep{Spitzberg84}`。

41 ～である`\citep{柴田 78, 竹内 82}`。

42 出力 ～である(安田・海野,1977)。

43 ～という(Spitzberg & Cupach,1984)。

44 ～である(柴田,1978;竹内,1982)。

45 著者が 3 名以上の場合は,以下のように筆頭著者
46 以外は省略されます。

47 Sacks et al.(1974)は,～。

48 すべての著者を列挙したい場合は,`\citet` や
49 `\citep` コマンドの代わりに,`\citet*`や`\citep*`
50 コマンドを用います。

51 Sacks, Schegloff & Jefferson(1974)は,～。

52 8. 後書き

53 後書きとして受付・修正版受付・掲載決定の日付
54 を書きます。論文投稿時には以下のコマンドをその
55 まま記述します。

56 `\received{201X年X月X日}`

57 `\revised{201X年X月X日}`

58 `\accepted{201X年X月X日}`

59 以上の指定を行ったのち,L^AT_EX 文書の最後
60 (`\end{document}`の直前)に以下のコマンドを記
61 述します。

62 `\makeendmatter`

63 付 記

64 付記を書きます。

65 謝 辞

66 謝辞を書きます。

1 注

2 1) (印刷版を作成するなどの目的で)行番号を抑制する
3 には,

4 `\usepackage[nolineno]{jass}`

5 のようにオプションを指定してください.

6 2) 以下の標準パッケージが読み込まれます.

7 `lineno` 行番号の生成

8 `txfont` Times 系フォントの使用

9 `caption` 図表キャプションの書式設定

10 `threeparttable` 表の脚注を含む整形

11 `endnotes` 末尾注の生成

12 `natbib` 科学論文で標準的な文献引用

13 `url` URL の整形

14 `flushend` 最終ページの左右段揃え

15 3) 各フォントサイズコマンドと Word におけるフォント
16 サイズとの対応は概ね以下のとおり.

17 `\tiny` 4pt

18 `\scriptsize` 4.5pt

19 `\footnotesize` 7pt

20 `\small` 8pt

21 `\normalsize` 9pt

22 `\middlesize` 9.5pt

23 `\large` 10.5pt

24 `\Large` 12pt

25 `\LARGE` 14pt

26 `\huge` 16pt

27 `\Huge` 20pt

28 `\HUGE` 24pt

29 **【参考文献】**

30 Atlas, Jay D. (2004). Presupposition. In Horn, Laurence R.,
31 & Ward, Gregory (Eds.), *The handbook of pragmatics*,
32 pp. 29–52. Malden, MA: Blackwell.

33 Dorian, Nancy C. (Ed.) (1989). *Investigating obsolescence*.
34 Cambridge: Cambridge University Press.

35 芳賀純 (1963). 日本人学生の学習した英語名詞の意味構造
36 の比較研究 *教育心理学研究*, 11, 33–42.

37 橋元良明(編)(2005). 講座社会言語科学2 メディア ひ
38 つじ書房

39 Hymes, Dell (1972). Models of the interaction of language

40 and social life. In Gumperz, John, & Hymes, Dell
41 (Eds.), *Directions in sociolinguistics*, pp. 35–71. New
42 York: Holt, Rinehart & Winston.

43 社会言語科学会 (2004). 原稿募集のお知らせ 社会言語科
44 学会 2004年11月8日 <<http://www.jass.ne.jp/ed/gakkaisi.html>> (2007年6月20日)

45 Kita, Sotaro (1993). *Language and thought interface: A
46 study of spontaneous gestures and Japanese mimet-
47 ics*. Doctoral dissertation, Department of Psychology
48 and Department of Linguistics, University of Chicago.
49 Chicago, Illinois.

50 Lave, Jean, & Wenger, Etienne (1991). *Situated learning:
51 Legitimate peripheral participation*. Cambridge: Cam-
52 bridge University Press. (佐伯胖訳 (1993). 状況に埋
53 め込まれた学習 産業図書)

54 Norrick, Neal R. (2000). *Conversational narrative: Story-
55 telling in everyday talk*. Amsterdam: John Benjamins
56 Publishing Company.

57 Sacks, Harvey, Schegloff, Emanuel, & Jefferson, Gail
58 (1974). A simplest systematic for the organization of
59 turn-taking for conversation. *Language*, 50 (4), 696–
60 735.

61 柴田武 (1978). 社会言語学の課題 三省堂

62 渋谷勝己 (2000). 徳川学の流れ—方言学から社会言語学
63 へ— *社会言語科学*, 2 (2), 2–10.

64 Spitzberg, Brian H., & Cupach, William R. (1984). *Interper-
65 sonal communication competence*. Beverly Hills, CA:
66 Sage.

67 竹内郁郎 (1982). 受容過程の研究 竹内郁郎・児島和人
68 (編) 現代マスコミュニケーション論, pp. 44–79 有
69 斐閣

70 山田寛 (2007). 顔面表情認知における情報処理過程 *社会
71 言語科学会第19回大会発表論文集*, 346–349.

72 安田三郎・海野道郎 (1977). *社会統計学 改訂2版* 丸善

73 Zajonc, Robert B. (1980). Feeling and thinking: Preferences
74 need no inferences. *American Psychologist*, 35, 151–
75 175.

77 (201X年X月X日受付)

78 (201X年X月X日修正版受付)

79 (201X年X月X日掲載決定)